



2023年 5月12日

各 位

会 社 名 中央自動車工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 坂田 信一郎
(コード番号 8117 東証スタンダード市場)
問合せ 常務取締役総務本部長 住吉 哲也
(TEL 06-6443-5192)

中期経営計画策定についてのお知らせ

当社は、2023年5月12日開催の取締役会において、2024年3月期を初年度とする計画期間3年の中期経営計画（以下、本計画という）を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

策定の背景

本計画は、2030年に向けたパーパスである「未来のモビリティ社会における最良のパートナー」を実現するための最初の3ヵ年と位置づけ、企業の持続発展に向けたSDGs/ESGや人的資本への積極的な投資とともに、ビジネスの更なる拡大に向けた基本戦略を策定いたしました。当社グループ一丸となって取り組み、更なる企業価値向上を図って参ります。

これまで中期経営計画を公表しておりませんでした。この度ステークホルダーのみなさまに当社の経営方針をより一層ご理解いただくため、本計画を公表することといたしました。

【添付資料】「中期経営計画(2023年度～2025年度)」

本計画の詳細は添付資料をご参照ください。

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上



CENTRAL 中央自動車工業株式会社

中期経営計画

(2023年度～2025年度)

2023年度～2025年度 中期経営計画

スローガン

Integrity and Appreciation!!

目 標

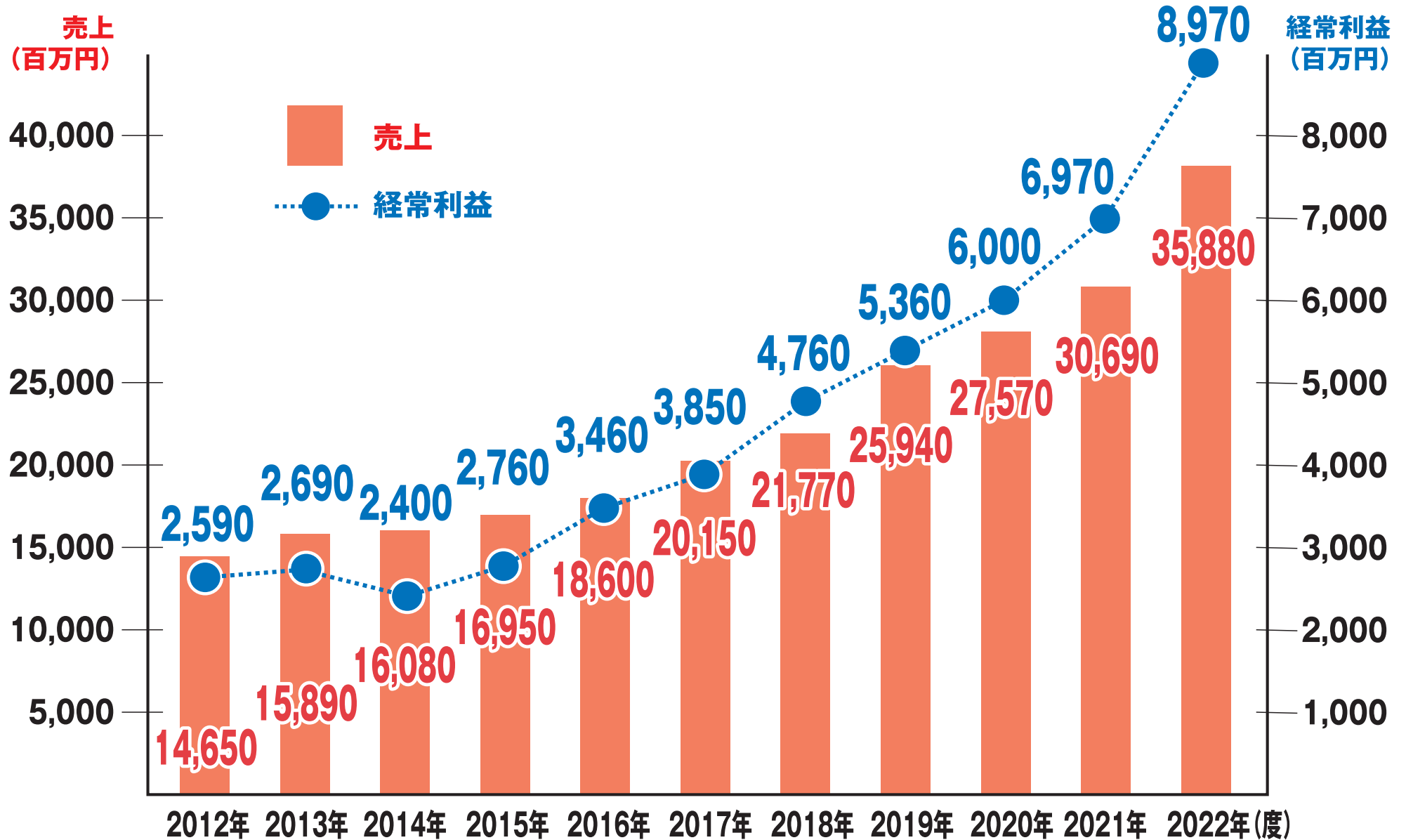
インテグリティと感謝を文化に

連結計数目標

売上 425億円

経常利益 100億円

1 2012年度からの業績振り返り(連結)



1 前3カ年の業績振り返り／総括

総括

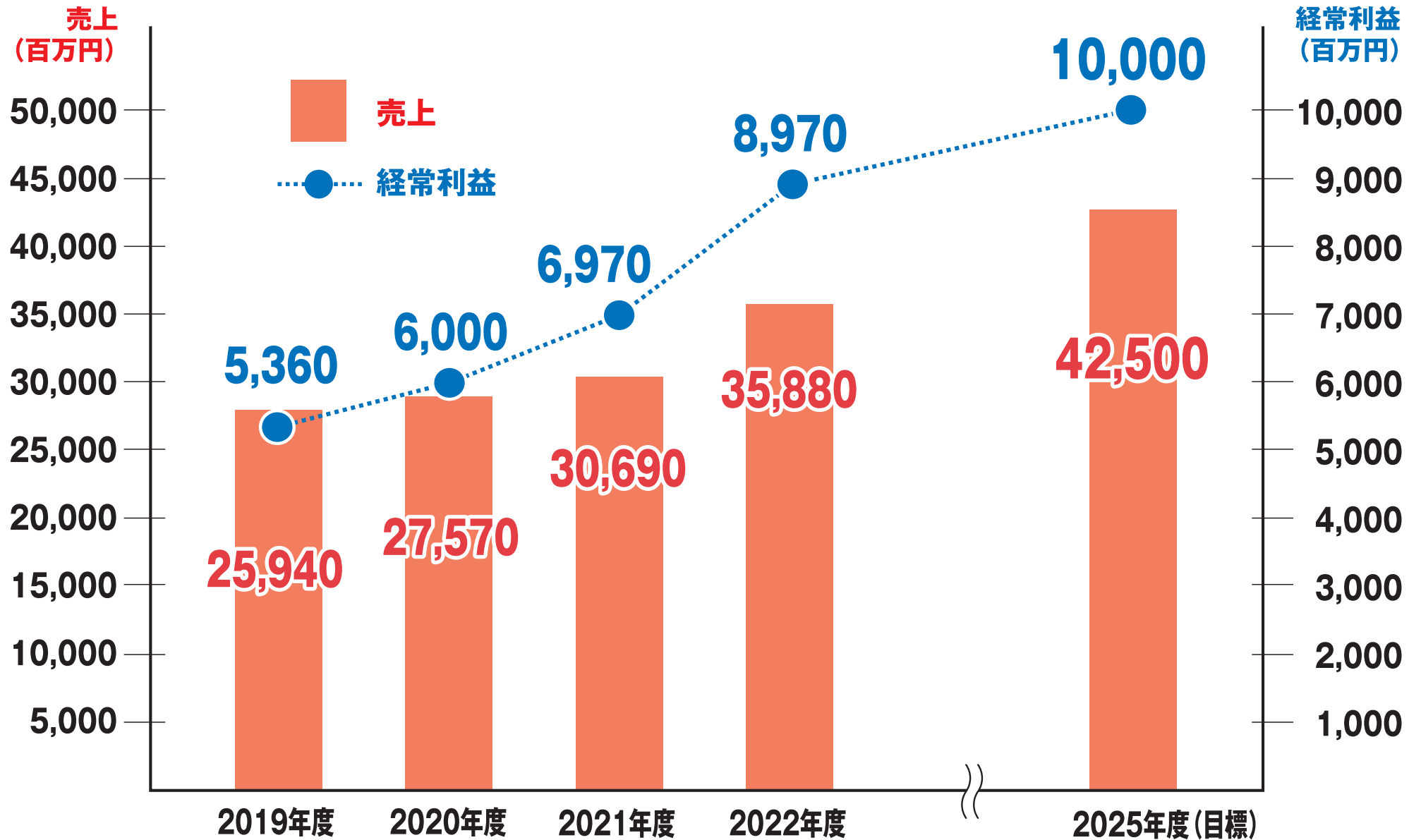
- コロナ禍を含む3カ年にわたり増収増益を維持。**
社内展開していた中期経営期計画の連結計数目標
(22年度目標：売上350億円/経常76億円)を達成。
- 国内においては、既存コーティングビジネスの新規取引の拡大と、
法改正を追い風として、アルコール検知器事業の拡大に成功。**
- 海外においても既存ビジネスである優良補修部品の拡販を継続しな
がら、PB部品のブランド化や国内開発商品の海外での販売にも挑戦
し、業容を拡大。**
- 連結子会社ABTも堅実な事業運営により50~60億円の売上を維持
(20年3月期は3ヶ月分の20億円)。**
- 結果として連結売上高は年平均成長率約12%にて推移。
経常利益率も20%以上の水準を維持。**

1 前3カ年の業績振り返り／課題

課題

- 既存ビジネス以外にも、自動車業界全体を視野に入れ、更に自動車業界以外での新規事業展開も同時に実現する必要がある。
- 上記の達成のためにも、研究開発への投資と、M&Aを含めた新規事業開発の重要性の高まり。
- コロナ禍での活動の一部リモート化により、社員同士のコミュニケーション機会が減少。一体感、帰属意識の醸成が必要。
- チャレンジできる、スキル獲得できる環境整備への要求の高まり。
- SDGs取り組みの体制強化の必要性。

2 中期経営計画計数目標



3 企業理念／基本方針／基本戦略

企業理念

世界のネットワークを通じて環境にやさしく、安全と豊かなカーライフを創造して、社会に貢献する。

基本方針

- (1) お客様の潜在ニーズを読み、期待を上回る新しい商品・サービスの開発を通じて需要を創造する。
- (2) 全てのお客様・お取引先様への感謝の念を忘れず、徹底したサービス体制を通じて、信頼とお役に立つ中央を目指す。
- (3) 役員・社員の能力と生活向上を通じて、社会的責任を果たす開発型企業を目指す。

基本戦略

- (1) 常に技術革新を追究し、お客様に感動頂けるオンリーワンの「開発型企業」を目指します。
- (2) 経営資源を当社の強みの部門と新しい事業開発に投下し、将来の礎を築くと共に、開発型企業の基盤を強化します。
- (3) 徹底した現場訪問と情報収集の強化をはかり潜在ニーズの先取りをします。
- (4) 教育体制の充実と共に役員・社員は自己成長に努めます。

4 パーパスの策定について

全役員社員との対話を通じて、当社の解決すべき課題や、2030年のあるべき姿を確認。
企業理念を踏襲しながら、2030年に向けた具体的な目標【パーパス】を策定しました。

パーパス：2030年の当社のあるべき姿

未来のモビリティ社会における 最良のパートナー

【パーパスに込めた想い】

「未来」志向。よりサステナビリティを意識した企業へ。自動車業界にとどまらず、
より広域にお役に立ちたいという意志を「モビリティ社会」という言葉に表現。

「パートナー」という言葉に含まれる「困った人を助ける」「一緒に汗をかく」というイメージは、
これまでの当社の活動を良く表し、未来にも持ち続けたい大切なイメージ。

当社の強みである真摯な「研究開発力」と愚直な「営業力」を一層磨き、
全社員一丸となり、パーパスの実現を目指します。

4 パーパスの実現の為に

パーパス実現に向けたビジョンと
当社社員が大切にしたい価値観

パーパス：2030年の当社のあるべき姿

未来のモビリティ社会における 最良のパートナー

【パーパス実現のためのビジョン】

- 社会の「もったいない」を減らす会社
- モビリティ社会に付加価値を創造する会社
- 異業種ビジネスへの挑戦=豊かな社会を支える会社
- 環境、健康、安全がテーマのオンリーワン企業
- 風通しの良い企業風土=心理的安全性を重視する風土
- 従業員の好奇心、成長意欲が充たされる会社

【CENTRAL WAY for 2030：社員が大切にしたい価値観】

- インテグリティ=誠意をもって正道を歩む勇氣
- 感謝の心
- 成長志向=学ぶ意欲(人材投資)
- 多様な価値観、個性の尊重
- チャレンジ精神(新規、M&A)
- 未来の世代へつなげる意識、責任感
- 公平、公正な姿勢
- SDGs、ESGの意識

5 3カ年重点項目

【①人的資本投資】

- 従業員エンゲージメント向上取り組み強化
- 能力向上を促す「学びなおし環境」の整備
- 多様な人材が活躍できる環境整備

【②ビジネス拡大戦略】

- 営業力向上への投資
(新営業分析ツール導入、中期目線研修での異業種人材、DX人材育成)
- 研究・開発への積極投資(産学連携強化)
- 企業ブランド強化(BtoBtoCの意識を強める)

【③SDGs/ESG投資】

- サステナビリティ経営の強化
- 健康経営への継続投資
- GHG算定、TCFD開示⇒削減ロードマップに沿った経営

6 本社：総務本部/広告宣伝 戦略

従業員エンゲージメント向上が最重点課題と認識
社員の物心両面が充たされ、優秀な人材が集まり、成長、育成される組織へ

【IR/投資家向け取り組み】

- IRサイトリニューアル、発信強化
- 人的資本/TCFDを含めた非財務情報開示充実

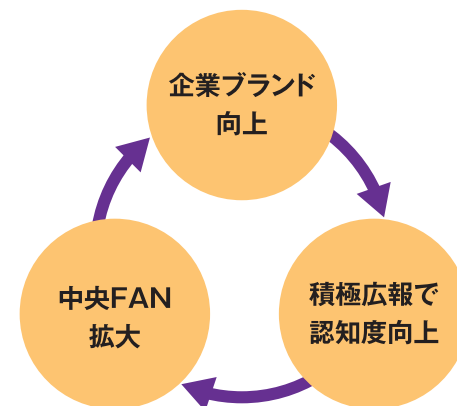
【現場支援】

- 東京支社新設移転 ⇒ 旗艦店としての機能充実、本社機能一部移転・関連会社移転にて経営効率向上。首都圏営業人員増、営業力強化。2024年度～
- 受発注システム改善

【企業ブランド向上】

- 広告宣伝部と経営企画室協働で全社レベルでブランディング推進
- 社員力向上を通じたブランディング

【その他】 ●ペーパーレス化継続推進 ●中途人材採用強化 等…



企業価値向上に向けて、より主体的な本部体制を構築

7 国内営業戦略

- コーティングビジネスの付加価値向上、既販車ビジネスへの投資拡大
- 環境負荷の少ない原料選定、改良を継続
- アルコール検知器事業の拡大
- 研究開発投資強化、次世代コーティングの開発
- 異業種向けのビジネス拡大に挑戦



**【Total Mobility Solution企業】へ進化し、
モビリティ社会になくてはならない企業へ**

■研究開発投資強化

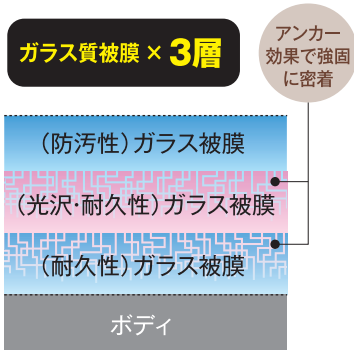
●中之島R&Dセンターにおける研究ノウハウの蓄積
(2017年開設、19年増築) ⇒ 人員増、設備投資により開発力を一層強化



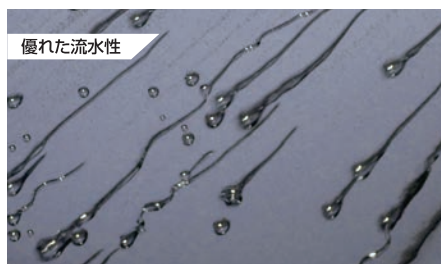
●大学やケミカル関連企業との連携強化 ⇒ 次世代コーティングの開発、
現行商品の改良に新たな技術を採用

※これまでの事例：九州大学とのエクセルピュア共同開発、新潟大学での太陽光パネル+エクセルピュアの効果検証 等

▼新開発の「CPCプレミアムコーティング“エクスGN”」



※被膜形成イメージ



※撥水イメージ



太陽電池用防汚コートの研究
～ 屋外実証サイトでの発電量評価 ～

キーワード 太陽電池モジュール、防汚コート、屋外実証サイト、ソーリング

研究の目的、概要、期待される効果
長期間屋外に設置される太陽電池モジュールには様々な要因で汚れが発生します。このことはソーリングと呼ばれ、太陽電池セルへの光入射量が低下することから、発電量の低下に繋がります。ソーリングの解決には、太陽電池モジュールのカバーガラスに防汚コートを施すことが有効と期待されています。防汚コートには、反射防止により太陽電池の発電性能を上げる効果もあります。本研究では、屋外サイトでの実証試験および屋内での加速試験と降塵模擬試験により、防汚コートの有効性と信頼性を検証しています。屋外実証試験は鹿児島県工業技術センターに設置したモジュールで実施しており、降塵によるソーリングの影響も検証することができ、屋内加速試験では水および各種有機溶媒の接触角ならびにHansen溶解度パラメータを用いて防汚性能の信頼性を評価しています。約1年半にわたる屋外サイトでの発電量評価の結果、防汚コートの有効性を明確化できました。さらに、防汚コートは降塵時の清濁にも効果がある可能性が示唆されました。本研究は、新エネルギー・産業技術総合開発機構の委託により、鹿児島大学、鹿児島県工業技術センター、中央自動車工業株式会社と共同で実施しています。

屋外実証サイトの外観、発電量評価装置と気象測器

太陽電池モジュールの発電量の推移

関連する国際会議
論文等
Soiling by volcanic ash fall on photovoltaic modules and effects of hydrophilic coating on module cover glass (Japanese Journal of Applied Physics 57, 08F006 (2018))
Application of Hansen solubility parameters to performance characteristics for anti-soiling coat on photovoltaic-module surface (33rd International Photovoltaic Science and Engineering Conference.)

アピールポイント
屋外での長期使用により太陽電池の性能変化が生じる原因を、材料科学的観点から究明する研究に10年以上携わっていますので、様々な知見を持ち合わせています。

つながりたい分野 (産業界、自治体等)
太陽電池メーカー、電機メーカー、化学メーカー、材料・素材メーカー、半導体製造装置メーカー等

※新潟大学にて当社のエクセルピュアを施工した太陽光パネルの発電効率が高まることを実証頂きました。
SDGsの観点からも一層提案注力して参ります。 <https://www.ircp.niigata-u.ac.jp/seeds/14128.html>

8 海外営業戦略

Mission : **次世代へつなぐ自社主導の高付加価値ビジネス構築**

■重点取引先との関係強化

■自社ブランド部品の販路拡大

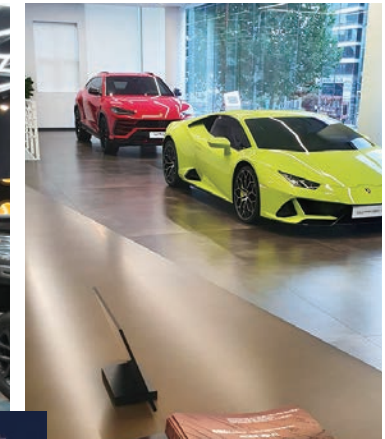
■海外連結子会社、現地法人とのネットワークを活かし、
国内開発商材販路拡大と新規ビジネス展開を模索



世界のモビリティ社会の隅々まで「安全」を届ける企業へ

■コーティングビジネスの海外展開加速

- すでに展開している地域への投資集中
- 大阪本社にて現地社員向け技術研修を実施し、日本品質を海外に輸出



9 新規事業戦略（経営企画室）

【M&A】

環境、健康、安全、モビリティという軸でM&A候補選定

【新規事業（社内ベンチャー）立上げトライアル】

次世代のチャレンジ意欲を満たす環境整備のために新規事業立上げに挑戦

【ベンチャー投資】

異業種情報入手、次世代の柱となる事業発掘のための出資も視野



**M&A、新規事業、ベンチャー投資を通じて
新たな事業領域創出にチャレンジ**

【国内連結子会社】

■株式会社ABT

- 自動車処分事業の確実な運営。
- 大手ケミカルメーカーとアクリル樹脂リサイクルの実証実験の取り組み。
- EVリサイクルの取り組み。

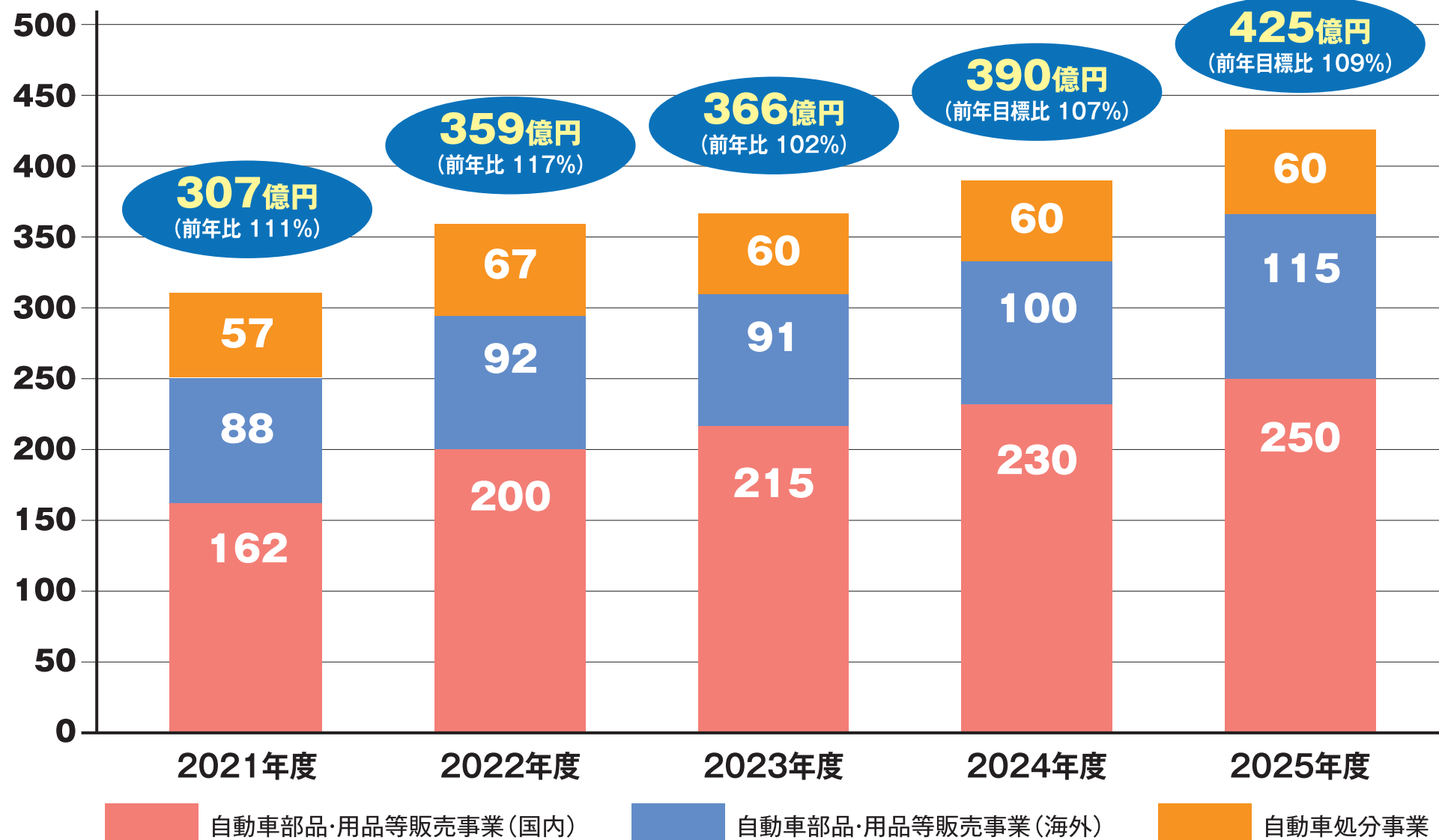
■セントラル自動車工業株式会社

環境に配慮したケミカル製品の安定した供給を通じて、グループの収益最大化に貢献。

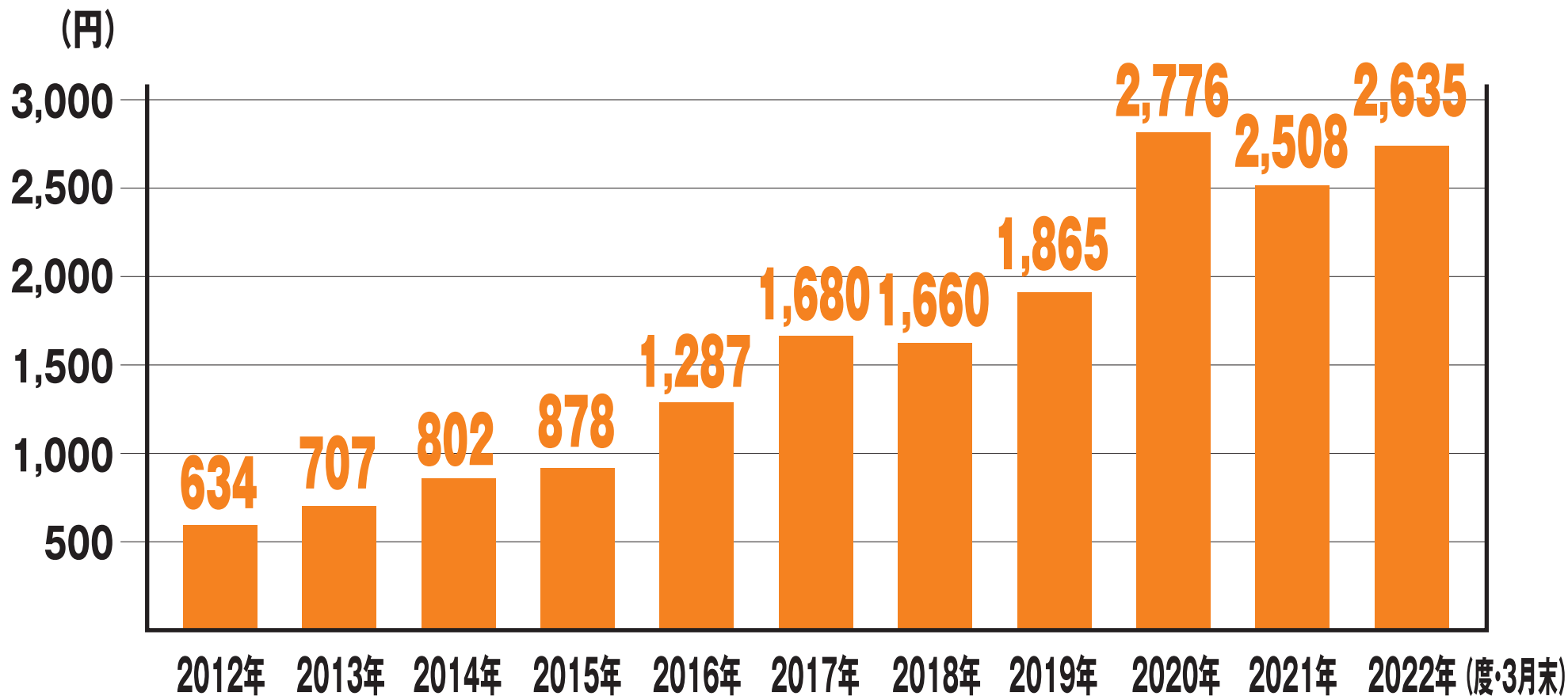


11 売上推移(連結)

(単位：億円)



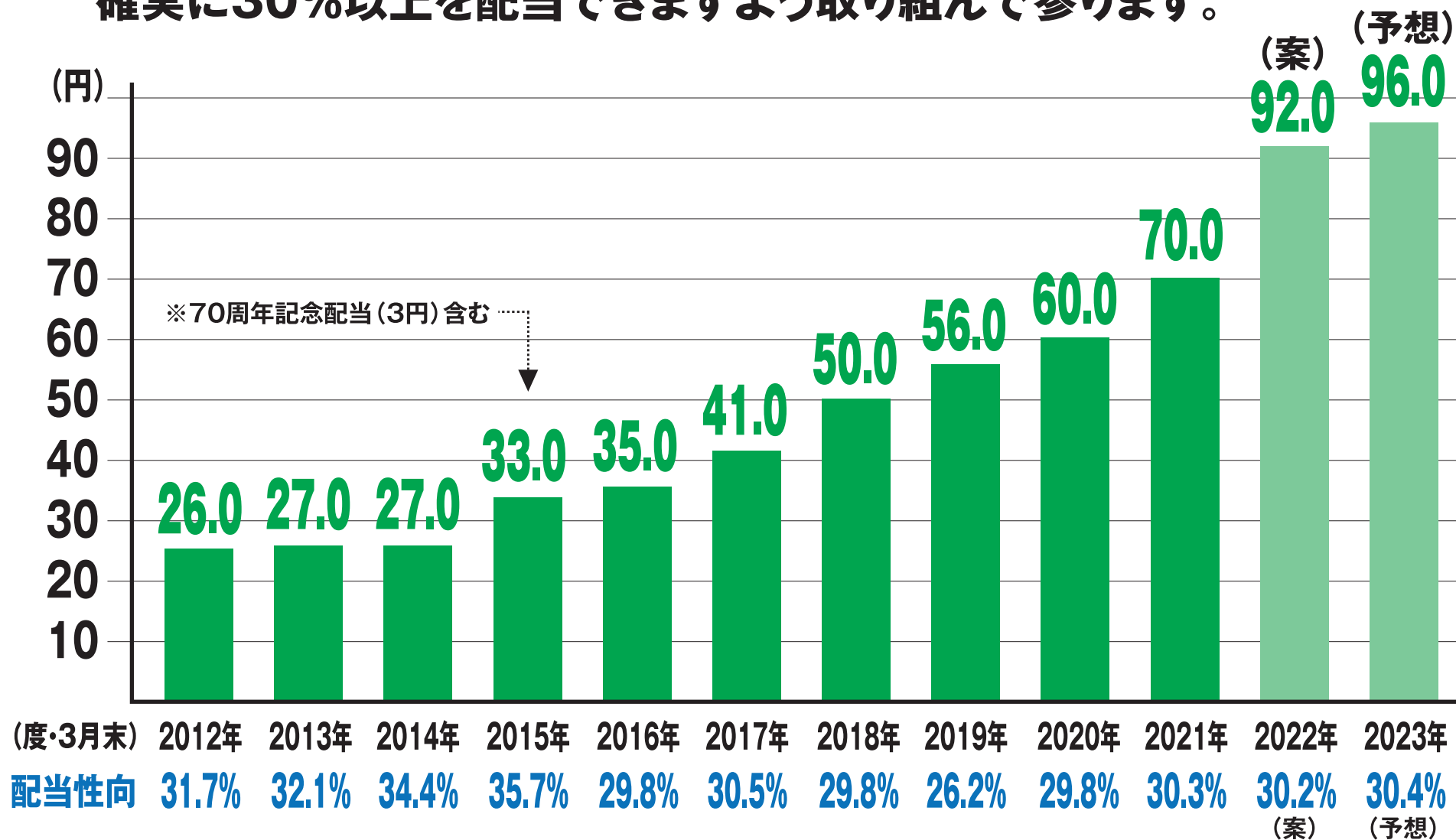
12 株価推移



●売上高利益率及びROE (自己資本当期純利益率) 10%以上の維持と、最高益の更新を通じて、株価のさらなる向上を目指します。

13 配当政策

●従来は単体ベースで30%前後の配当性向でしたが、2023年度より、確実に30%以上を配当できますよう取り組んで参ります。



ボディコーティングなどの溶剤の空き瓶を回収、リサイクルに繋げる取り組みを拡大

●取り組み都道府県

北海道

東北地区 / 青森、岩手、
山形、宮城、
福島

関東地区 / 東京、神奈川、
埼玉、千葉

東海地区 / 愛知、静岡、
岐阜、三重

関西地区 / 大阪、兵庫、
京都、滋賀、
奈良、和歌山

中国地区 / 岡山、広島

九州地区 / 福岡

※上記以外も順次実施の予定



※得意先様に回収用ドラム缶等を設置。



(株)ABTにて、アクリル樹脂を回収・リサイクルするスキームの実証実験を開始

子会社である(株)ABTにて、アクリル樹脂ケミカルリサイクルの事業化に向け、東京海上日動火災保険(株)および三菱ケミカルグループと共同で、使用済自動車からアクリル樹脂を回収・再利用するためのスキームについて実証実験を開始しました。

まず、2023年3月から関東地区において、約1,000台の使用済自動車からアクリル樹脂を回収する実証実験を行っています。



14 ESGの取り組みの一例／Ⅲ

感染症予防対策への援助、啓発活動や教育活動、スポーツ活動への協力

大阪の公共施設等へ、抗ウイルス効果のある衛生商品「抗菌・防臭チタニア」を寄贈施工。

- 大阪市立中央図書館 ●大阪中之島美術館 ●大阪市立科学館 など



交通遺児等育成基金への寄付。

- 公益財団法人交通遺児等育成基金に、会社及び社員の善意金を寄付。また、2006年度からソシアックの売上収益の一部寄付を継続中。



- FMラジオ局の飲酒運転防止活動への協賛。
- 交通安全啓発映画等への協賛。
- 財団法人全日本交通安全協会へ、交通安全教育用としてソシアックを寄贈。



- 全国マスコミへの取材協力、各種シンポジウムへの協力。
- 財団法人アジア福祉教育財団への継続的な寄付。
- JPA日本パラ陸上競技連盟へのオフィシャルパートナーとして協賛。



※一昨年、昨年に引き続き、「健康経営優良法人2023」に認定されました。今後も、環境・社会への貢献、社員の健康管理への取り組みを継続してまいります。

14 SDGs / ESGについて



交通事故被害者への援助、啓発活動への協賛

(財)交通遺児等育成基金に、会社及び社員の善意金を寄付。同基金へのソシアックの売上収益の一部寄付や、ラジオ局の飲酒運転防止活動への協賛を継続。



啓発活動、スポーツ活動への協力

財団法人アジア福祉教育財団への継続的な寄付。JPA日本パラ陸上競技連盟へのオフィシャルパートナーとしての協賛を継続。



健康経営への取り組み

従業員の心身の健康を重要な経営課題と捉え、2020年度より健康経営の取り組みを実施。一昨年、昨年に引き続き本年も「健康経営優良法人2023」に認定されました。



パートナーシップ構築宣言に参画

「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」における、サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者との連携・共存共栄を進めるという趣旨に賛同し、パートナーシップ構築宣言に参画。



ダイバーシティの推進

個々人の多様性と創造性を積極的に活用できるよう、海外現地法人において、現地スタッフの採用や企業全体として女性管理職の登用を推進。



ISO14001、9001の認定を取得、活動を継続

ISOへの取り組みのため、「電気使用量の確認と節電にむけた対策」「紙類リサイクルの徹底」「営業車のHV化」等の活動を継続実施。



FS 543170 / ISO 9001
EMS 543169 / ISO 14001
本社 国内支社・営業所



ボディコーティングの販売による環境負担の軽減

当社開発商品である各種コーティングを販売することにより、洗車回数の削減やカーシャンプー使用頻度の低下による水質保全に繋げる。



アルコール検知器のパッケージ紙素材使用

当社開発商品であるアルコール検知器の梱包は全て紙素材を活用し、プラスチックごみによる海洋汚染問題への対策に対応。



人と環境に優しい製品開発

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR制度) 等、各種法令に配慮した、人と環境にやさしい製品開発を推進。常に最新の安全データシート (SDS) をHPより提供。



コーティング製造工場における廃液排出ゼロの取り組み

関連子会社のセントラル自動車工業株式会社における製造過程での廃液排出をゼロにすることにより、周辺環境への影響を無くし、環境汚染等を防ぐ取り組みを推進。



2025年度には
「インテグリティ」と「感謝」が企業文化となり
仕事を通じて社会のお役に立てる
もっといい会社を目指して参ります。



中央自動車工業株式会社
CENTRAL AUTOMOTIVE PRODUCTS LTD.